

Aコープ「いい肉の日」「全農フェア」同時PR ～やまゆりポーク生産者協が試食配布～

J A全農グループは全国食肉事業協同組合連合会と連携して、毎月29日を「肉の日」PRを昨年から実施している。例えば、J A全農ミートフーズ(株)の直売所「ぴゅあ相模原店」では、毎月29日に特売を実施して「肉の日」定着を図っており、近隣から車で多くの来店者があるなど、一定の効果を上げている。中でも「11月29日は、いい肉の日」と銘打ち、全国規模で特売やキャンペーンなどを展開し、国産畜産物の販売促進へ一役買っている。

「いい肉の日」に合わせ、やまゆりポーク生産者協議会の西山國正会長は、J A全農ミートフーズ(株)とJ A全農かながわ、J A東日本くみあい飼料(株)の担当者らと共に、Aコープ中田店(横浜市泉区)の店頭で「やまゆりポーク」バラ肉の試食PRを行った。西山会長は「私達が育てたお肉です」「Aコープ店内で販売中です」と声を張り、積極的に試食をすすめていた。県内Aコープでは日頃から「やまゆりポーク」など県産畜産物を取り扱っており、来店者が「美味しいから、いつも買っている」と笑顔を返す場面も見られた。



地場産・国産農産物を集めた「農産店頭市」との相乗効果で、賑わった



「私たちが育てたお肉です」と店頭で呼びかけ、消費者に試食をすすめた

同時期、(株)エコーコープ関東では「全農フェア」を展開中で、中田店では「農産店頭市」を催し、ミニトマトやみかんの詰め放題や、国産・地場産の農産物を特価で販売した。

中田店の精肉売場の担当者は、「今日は精肉が良く売れている。毎月行っている『肉の日』特売が定着してきた事や、店頭での試食PRと『全農フェア』『農産店頭市』の相乗効果、日曜日で晴天である事など、好条件が揃ったようだ」と話した。

生産者による販促活動の効果について、西山会長は「協議会では、『農場トレーサビリティ』導入など、生産者と消費者の距離を近づけ、顔の見える関係づくりを強化している。生産者自ら店頭で消費宣伝を行い、お客様の声を直接聞くことは励みになる。また、販売店の意見を受け止めることで、生産・販売間の連携を強化していきたい」と話している。